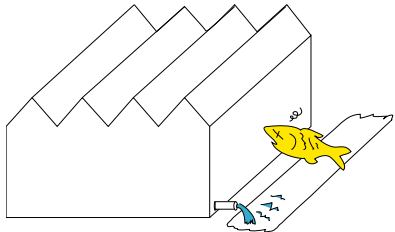


間欠給肥法で排出肥料を大幅削減できる バラ養液栽培システムの開発

バラ栽培面積の50%が養液栽培。そのうち90%がロックウール掛け流し方式で、吸収されない養液は、ほ場外に排出している。



肥料は外へ流したくないんだけど、バラがたくさん収穫できないと、収入は減ってしまうし……
3年以上栽培するバラで循環式は無理だし



バラ農家山崎完治の排出肥料削減の技術シーズ

- ・ 液肥給液回数の制限と、かん水を組み合わせた新しい給液方法（間欠給肥法）で排出肥料削減
- ・ 余剰水を再利用できる栽培容器で排出肥料削減



静岡県農業試験場

- ・ 養液栽培の知見とシステム開発能力、養分の動態解析

株式会社プランツ

- ・ 養液栽培制御装置の開発能力と販売力

共同研究内容

①間欠給肥の自動化

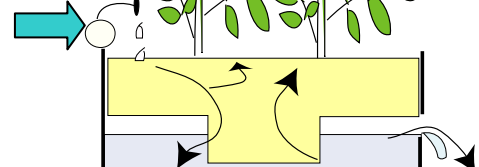
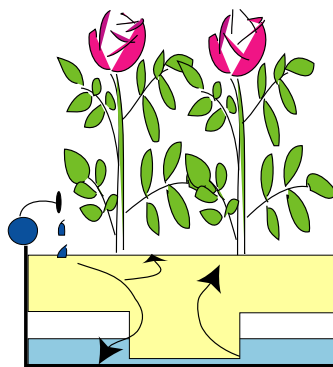
②排出量を更に削減する新システムの開発



間欠給肥法

朝の数回は、液肥を与える。

その後水のみを与え、余剰水の肥料濃度が下がった時点で外部に排出する



新技術で期待できる効果

- ・ 肥料成分排出量の大幅削減で、環境負荷軽減
- ・ 肥料代の節減
- ・ バラの収量・品質は、従来と同程度かそれ以上
- ・ バラ、野菜等、いろいろな作物に普及が期待できる